

「中心市街地とのネットワークが必要」「活性化のための青年組織も」...

板倉区で中山間地対策特別委員会と若い人たちが意見交換

市議会中山間地対策特別委員会(橋爪法一委員長)主催の「若い人たちとの意見交換会」が、11日、板倉コミュニティプラザで開かれました。昨年に続き二回目の開催です。板倉区や中郷区、安塚区から10人ほどの若い人たちが参加したほか、集落づくり支援員、元気な農業づくり支援員さんなども参加し、たいへん有意義な意見交換会となりました。

最初に、橋爪委員長が、これまでの委員会の取り組みと意見交換会の目的について説明したあと、2班に分かれて活発に意見が交換されました。

参加者からは、「平場に住んでいるが、土日を中心にヤマで田んぼをしている。冬は除雪をしないと近づけない。集落維持の活動ができればいいと思うている」「このままだと10年後には一人しか住まない家ばかりになってしまう」「子どもを産むのも大変だ。毎日通わなければならぬような病気だと高田ということになる」など医療環境の悪さも指摘されました。また、「中心市街地とのネットワー

クが必要ではないか」「発想を転換し、もっと広いエリアで若い人たちのネットワークを作る、例えば山間地活性化青年部みたいなものを作るべきだ」「田んぼは2町歩、それとハウスで越の丸ナスなどをやっている。ハウスは冬場、10日間で重油450リットルも使うことがある。オータムポエム等を作っても、(採算が)合うのかどうか。冬の収入を確保したい」「住民組織が自立できるように支援してもらいたい」「山間地から離れていった人たちは、決してそこを嫌いになったわけでもない。地域には住める空き家はいくつもある。親と一緒にそこに住む場合と

か、その住宅をリフォームする場合、補助率を他よりも上げるなどの検討をしてほしい」など、多様な声が次々に出されました。橋爪委員長は、「これらの声を十分に検討して市に提言していきます。ご協力くださったみなさん、ありがとうございました」とコメントしました。

「住民組織が自立できるように支援してもらいたい」「山間地から離れていった人たちは、決してそこを嫌いになったわけでもない。地域には住める空き家はいくつもある。親と一緒にそこに住む場合と



挨拶する橋爪法一委員長



意見交換会の様子

住宅リフォーム助成、来年度も継続を！ 商店向けのリニューアル助成制度も！

市内商工団体が市に申し入れ・上野議員が同席

上越民主商工会は11月19日(火)、上越市内の中小商工業者の皆さんの要望を受けて、住宅建築課と産業振興課に制度の継続と充実を申し入れました。

提出した要望書によれば、「アベノミクス」による株価上昇で大企業の収益が上がる一方、円安による原材料の値上げや消費の冷え込みなどで、中小企業者の収益はいまだ回復していません。また、消費税増税前の一部駆け込み需要は見られるものの、小売・卸売業や建設関連を中心に、依然厳しい状況に追い込まれています。



商店版リニューアル助成制度の創設を申し入れ

そこで、①市内経済の活性化を図るために「住宅リフォーム促進事業」を来年度も継続すること、②商業の活性化を目的に商店向けのリニューアル助成制度を創設すること、の2点を申し入れました。

上越に県立武道館の建設を！

上越、妙高、糸魚川、十日町の4市で決起集会



11月17日(日)、リージョンプラザ上越コンサートホールで、上越市に県立武道館を誘致しようという決起集会が開かれ、4市の行政、議会、武道愛好家ら関係者約500人が氣勢を上げました。

大会アピールは、剣道の2人の中学生や空手の青年が元気よく発表しました。



日本共産党上越市議員団ニュース

No. 387 2013年11月24日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)